



宮司ブレス 第百七十九号

彦島八幡宮 宮司ニユース

発行者 彦島八幡宮

宮司 柴田 宜夫

発行 令和三年十一月 五日

◇宮司の柴田です。 明後日の十一月七日は、立冬(りうとう)です。 暦の上では、冬を迎えるということになります。 節分は、年に四回あるということを、皆様、御存知(ごぞんじ)でしょうか。 一陽来復(いちようらいふく)すれば春となる、その年中用事(ねんちゆうぎようじ)ともいえる二月の節分行事が、余りにも、「日本人の生活の古典」として根づいているものですから、なぜ、四回と不思議に思われるかもしれません。 実は、立春・立夏・立秋・立冬の前日は、節分です。 したがって、明日は、今年最後の節分です。 私共は、立夏と立冬で、祭典で着装(ちやくそう)する装束(しようぞく)の衣更(ころもがえ)をしています。 平安時代のお公家(くげ)さんは、四月の袷(あわせ)を皮切(かわき)りに、十月の練絹(ねりぎぬ)の綿入(わたい)れまで、年七回も衣更えをされておられました。 江戸時代から、四月一日、十月一日をもって春夏の衣をかえる日となったそうです。 当宮の衣更えを立夏立冬としたのは、私が宮司に就任(しゆうにん)して初めて迎えた、平成十七年の立

冬からです。 近年の立夏と立冬の衣更えが、折節(おりふし、季節のことです。)の移ろいに、ピッタリと一致していますが、これは、あまり喜ぶべきことではありません。 秋という季節が、遅く訪れ、せかさされるように、冬へとうつりかわり、しかも、酷暑、厳冬、確実に、秋の季節が短くなったと感じるからです。 それもそのはずで、国連のグテレス事務総長は、「気候危機は人類に対する赤信号」、「警告のきざしは、もはや見過ごせないレベルに達している」と仰(おっしゃつ)ています。 さらに、今世紀末には、人類が住めない死の地帯が大幅にふえる」とまで仰(おお)せです。 確かに近年は、気温が、全国各地で過去最高を更新しています。 少し、おおげさですが、違和感のない衣更えに、気候危機を感じさせられます。

◇さて、お待たせ致しました、宮司プレス第百七十九号の発行です。 十一月のことを「霜月(しもつき)」と称(しょう)しますが、諸説ありますけれども、「下(しも)つ月」が由来(ゆらい)とされています。 二ヶ月併記(へいき)のカレンダーは、余すところ一枚とな

りました。 新型コロナウイルス感染症に振り回されながら、生活環境も大きく変容を余儀(よぎ)なくされながらの、今年これまでの十ヶ月だったのではないのでしょうか。 ようやく、感染症の拡大は下火となり、経済活動は徐々にはありますが、再開しています。 しかしながら、「第六波」の到来(とうらい)も予測(よそく)されています。 さらに、新型コロナウイルスの弱点は発見されておらず、当面の間、ウイルスとの共存が必要なのです。 当たり前の日常の訪れは、まだまだ時間を要(よう)しそうです。

◇今月二十三日の当宮の新嘗祭(にいなめさい)、さらには、二十五日の六連島八幡宮の新嘗祭は、この一年間の神様の御神恩(ごしんおん)に、感謝の誠の心を捧げる、大切なお祭り、重儀(じゅうぎ)であります。 今ある命に、心から感謝を申し上げ、出来たこと、出来なかつたこと、トライ アンド エラーの日々を謙虚に振り返りつつ、これからも変わらない日常を祈るのです。 祈りの語源は、「齋(い)宣(の)る」なのだそうです。「齋」は、身も心も清めるということです。「宣る」は、つつしみて、神様に願(ねが)い事を申し上げる、祈願することです。「祈りは欲を浄化(じょうか)する」という言葉が示しているように、身を削(そ)ぐ思いで、心身を清

め、そして、祈願申し上げるのが、祈りなのではないでしょうか。「お祈りをするので、このような成果をください」という「神様との取引」だったり、「神様が願いを聞いてくれなかったから、こうなった」と、恐れおおくも、不平不満を言上(ごんじょう)し、訴(う)った)えるようなことは、本来の「祈り」の姿ではありません。

◇神社神道は、「つながりの宗教」であると、常々考えておりますが、神様につながり、大自然の恵みにつながり、そして、大切な人々とつながって、「生かされている」のです。そう思えば、大自然との向き合い方、日々の暮らしも善き方向へ進んでいくような気がしてなりません。前述の「気候危機」への関心も深まっていくのではないのでしょうか。じつは、世界的な物理学者であるアインシュタインも、そのような感情を「宇宙的宗教感情」と仰っています。

◇詩人の坂村真民さんは、「大切なのは かつてでもなく、これからでもない 一呼吸一呼吸の今である」という詩を残していらっしやいます。臨済宗(りんざいしゅう)の臨済録(りんざいらく)に、「隋処(ずい)主作(ずい)しよしゆとなれば) 立所(たつ)皆真(たつ)たつところみなしんなり)」と書かれています。「今、与えられていることに全力をつくしなさい、

きつと、必ず、上手くいきますよ」という意味です。私も、祭典厳修につとめ、しっかりと、「齋宣(いの)り」を捧げてまいります。皆様方も、これからも、いまして辛抱が必要ですが、アインシュタインの仰った「宇宙的宗教感情」を忘れずに、一呼吸一呼吸の今、与えられていることに全力を傾けましょう。きつと、必ず、素晴らしい日々となりますように。

◇十月の祭典行事予定(報告も含む)

▼月次祭 *十月一日、十五日

▼貴布禰神社月次祭 *十月一日

▼六連島八幡宮秋季例大祭

*十月四日〜五日

▼田の首八幡宮秋季例大祭

*十月九日〜十日

▼下関市青年神職会正式参拝

*十月十二日

▼舞子島八幡宮例祭 *十月十五日

▼明神社例祭 *十月十五日

▼朝粥会 *十月二十一日

▼秋季例大祭 *十月二十二日〜二十四日

※サイ上り神事 *十月二十四日

◇十月の宮司動静報告

▼彦島八幡宮関係団体

□敬神婦人会清掃奉仕作業*十月十七日

□秋祭奉仕者説明会 *十月二十日

▼山口県神社庁関係

□顧問参与会 *十月六日

□講演講師養成講習会 *十月六日

□神社庁役員会 *十月十三日

◇十一月の祭典行事予定(報告も含む)

▼月次祭 *十一月一日、十五日

▼貴布禰神社月次祭 *十一月一日

▼明治祭 *十一月三日

▼龍宮神社例祭 *十一月三日

※弟子待町に鎮座する龍神さんを祀(ま

つ)る神社

▼新嘗祭

◆彦島八幡宮 *十一月二十三日

◆六連島八幡宮 *十一月二十五日

日

◇十一月の宮司動静報告

▼彦島八幡宮関係団体

□奉賛会行事委員会

◆総代会 *十一月二十三日

◆奉賛会行事委員会

※大注連縄(おおしめなわ)おろしの

稲藁(いなわら)刈取作業(市内菰

生野の野村様田圃(でんぼ)

*十一月二日

▼山口県神社庁関係

□下関支部神宮大麻頒布始祭 *十一月四日

□神社関係者大会 *十一月二十九日